

芸予地震アピール

さきに瀬戸内地方を襲った芸予地震の被災地では、阪神・淡路大震災や山陰の際と同じく、被災史料・文化財保全活動がはじまりつつある。歴史資料ネットワーク（史料ネット）や鳥取県西部地震（山陰中部地震）被災史料救出ネットワークの支援を受けつつ、愛媛県側と広島県・山口県側のそれぞれにおいて、地元の関係者によるネットワークも組織されつつあり、メールニュース網もすでに立ち上がっている。他地域の皆さんからの、支援協力を期待したい。

以下に、芸予地震の被災地に向けての、阪神と山陰のふたつのネットワークからのアピール文を紹介する。

辻川 敦（尼崎市立地域研究史料館）

芸予地震（安芸灘地震・瀬戸内地震）被災地の 歴史資料・文化財関係者の皆さんへ

このたびの地震でこうむられた大きな被害と、今も続く不自由な生活に対し、謹んでお見舞い申し上げます。

私たち歴史資料ネットワーク（阪神大震災対策歴史学会連絡会）と、鳥取県西部地震（山陰中部地震）被災史料救出ネットワークは、5年前の阪神淡路大震災と、昨年の鳥取県西

部地震の被災地で、歴史資料を始めとした文化遺産の救出・保全をおこなってきた歴史・民俗研究者の団体です。私たちは、震災時に、全国の市民・研究者等から支援をうけて、自治体や地元住民と協力しながら、地域社会の民間史料の救出や文化財の被害調査など、被災地における文化遺産の保全・再生の取り組

みおこなってきました。

これらの歴史資料・文化財の保全復旧活動は、少なくない成果をあげましたが、その一方で、損壊建築物の解体の際に焼れたり、撤去・破棄された古文書や民具も少なくありません。阪神大震災の場合、それまであった文化遺産の三分の二が、被災地域から滅失してしまったという報告もあり、始動が地震の約1ヶ月後と遅かったことが反省点にあげられました。この教訓を踏まえ、鳥取県西部地震では、地震直後から活動を開始しましたが、現地の組織体制の早期確立が、今後の課題に残りました。

今回の瀬戸内地震の被災地は、歴史的環境の豊かな地域として知られています。収蔵施設に保管されているもの、文化財指定を受けているものの他にも、地域のあちらこちらに、先人の営為を伝える歴史資産、文化遺産が数多く存在するはずで、それらが今回の大地震を乗り越えて保全されれば、地域の再生にむけた心の糧になるはずで、古文書や民具・石造物など地域遺産が、震災のせいで姿

を消してしまわないよう、関係者は手立てを尽くすべきではないでしょうか。私たちも同じ体験をしたものとして、出来る限りの支援・協力をしていくつもりです。

2001年3月26日

歴史資料ネットワーク（略称史料ネット）

代表幹事：奥村 弘（神戸大学助教授）

〒657-8501

灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内

TEL/FAX：078-803-5565

URL：<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/welcome.html>

MAIL：yfujita@lit.kobe-u.ac.jp

鳥取県西部地震（山陰中部地震）

被災史料救出ネットワーク

代表：竹永三男〈鳥根大学教授〉

〒690-8504

松江市西川津町1060 鳥根大学法文学部気付

TEL：0852-32-6191（小林准士研究室）

URL：<http://www.hist.shimane-u.ac.jp/eq/index.html>